

2001年 卒業研究要旨

健康に関する自己決定権と意思・病院とのつきあい方

西出 佳代

最近、臓器移植や生殖医療などに代表されるような「医療技術と人間」の関係や、インフォームド・コンセントに代表されるような「医師と患者」の関係といったものが注目されている。インフォームド・コンセントとは、日本医師会によれば、「説明と同意」である。また、治療に対する患者の自己決定権への関心も高まりつつあり、患者自身が自分の病気に対して積極的に知ろうとしたり、病気と自己を管理しようとする気運が高まってきた。病気に関する多くの情報がHPに存在していることから、その傾向をうかがうことができよう。個別の病気を扱ったHPも多数存在している。さらに、マスメディアにおいても健康情報はかなりもてはやされている。現代人は、程度の差こそあれ何らかの病気と闘ったり、つきあったりしながら生活していると言える。

私は、「人々が医療にどの程度関心があり、どの程度の積極性があるのか」や「医師・病院とのつきあい方」に注目しながら、この卒業論文を書いていきたいと思う。第1章では、医療と社会がどのように関わっているのかを論じることにより、医療は社会と密接に関係していることを見ていく。第2章では、患者の権利の1つであるインフォームド・コンセントに注目し、より良い医師-患者関係を考えていくことにする。第3章では、学生調査を次の3点、①学生はカルテの内容に興味をもっているだろうか、②医師や病院とどのようにつきあっているのだろうか（患者の積極性とインフォームド・コンセントの実態）、③慢性疾患をもつ人の実態から考察する。特に第5節では、調査票調査とインタビュー調査から見えるものをまとめて論じる。